

千代の古道 2

さかの山 みゆき絶えにし 芥川の
千世のふる道 跡はありけり
在原行平朝臣 ~ 後撰和歌集

大覚寺境内は嵯峨天皇の離宮があった国指定史跡です。歌枕に詠まれた千代の古道は近世、いろいろな道筋がそれと見なされ、嵯峨野への道には和歌や千代の古道の名が刻まれた石碑が建てられています。平安宮から嵯峨天皇の離宮への行幸路はいくつかが想定されていますが、今回は下立売通の西郊への延長線にある南側の道と、一条通または一条大路の西への延長とみなされる北側の古道を歩きます。JR花園駅から妙心寺をスタートに、平安時代末期に待賢門院が再興した法金剛院を通り、南側の道を嵯峨御所跡の大覚寺へと歩き、折り返して北側の道をJR花園駅まで戻る古の行幸路を偲びます。平安の昔を偲ばせる周辺の美しい風景を楽しみ、道筋の史跡、名勝、遺跡の数々と見どころを紹介します。

大覚寺 ~旧嵯峨御所大覚寺門跡~

平安時代初期、嵯峨天皇は離宮・嵯峨院を建立しました。大沢池は唐の洞庭湖を模して造られた林泉式庭園で、嵯峨院滝殿跡の名古曾滝(なごそのたき)の石組や遣水(やりみず)の跡が残っています。876年に寺に改め、天皇や皇族が住する門跡寺院となりました。宸殿・正寝殿(ともに重要文化財)などの伽藍建築は嵯峨御所と呼ばれた宮廷の美を今に伝えていきます。



大沢池と大覚寺御所跡(国指定史跡)



大沢池の名古曾滝跡(国指定名勝)

勅封心経殿
大覚寺は般若心経写経の根本道場として知られています。心経殿には、嵯峨天皇とゆかりの天皇の写経が収められており、開扉は60年に一度とされています。

嵯峨野の山と朱山の陵墓

嵯峨野から衣笠にいたる山裾に沿って陵墓が点在しています。



嵯峨天皇嵯峨山上陵(さがのうさのやまのみささぎ)



後宇多天皇蓮華寺陵(こうだてんのうれんげじのみささぎ)



村上天皇村上陵(むらかみてんのむらかみのみささぎ)



円融天皇火葬塚(えんゆうてんのうかそうづか)

名勝 雙ヶ岡

標高116mの一ノ丘と二ノ丘、三ノ丘からなる丘陵に、散策路が整備され、頂上からは素晴らしい景色が望めます。二ノ丘の東麓に鎌倉時代末期、兼好法師が庵をいとなみ「徒然草」を完成させました。

鳥羽天皇皇后璋子内親王墓
鳥羽天皇の中宮・崇徳、後白河兩天皇の母・待賢門院(藤原璋子)の陵墓です。陵の東には娘にあたる上西門院統子(むねこ)内親王墓があります。



一条天皇陵から望む雙ヶ岡

源光寺
平安時代末期、源義経の母、常盤御前が常盤院という庵をいとなんでいたと伝えられています。六角堂には六地藏巡りのひとつ、常盤谷地蔵が祀られています。



安堵の塔・ルルゲ(龍華)さん
日像上人が古墳の石室に隠れて、法難を逃れることが出来たことに感謝し、題目をその石材に刻んだことから安堵の塔と呼ばれています。災難除けの功德があると信仰されています。



大覚寺油掛地蔵尊
鎌倉時代後期の阿弥陀如来像が、地蔵尊として祀られています。油商人が貴重な油を掛けて、商売繁盛を願ったといわれています。



佛教大学宗教文化ミュージアム
宗教文化の資料展示や企画展、講演会が開催されています。宗教芸能を上演する劇場「宗教文化シアター」が併設されています。



京都市宇多野ユースホステル
緑豊かな高台にあります。木をふんだんに使った和風建築が美しく、最も居心地のよいユースホステルに選ばれています。
☎075-462-2289



天王社八幡宮
創祀・祭神は不明です。天王社は昔、古墳の上に祠が祀られていたといわれています。現在は古墳の石が磐座として祀られています。



妙心寺

妙心寺は花園上皇が大燈師に深く帰依して、室町時代初期にこの地にあった離宮を禅寺にしたことに始まります。17世紀後期には境内、境外合計3の塔頭を数え(『京羽二重』)、広大な妙心寺境内は、現在国史跡に指定され、敷地には46の塔頭寺院が立ち並びます。また、境内は勅使門から北に向かい、三門、仏殿、法堂、寝殿(いずれも国重要文化財)が一直線に配置されています。常時拝観できるのは、法堂、退蔵院、大心院、桂春院となっています。



南総門



三門(重要文化財)



仏殿(重要文化財)



退蔵院余音苑



嵯峨野の古墳

嵯峨野にはこの地域で活躍した秦氏との関連が深いとみられる古墳が点在します。

(私有地への立入りには所有者の許可を得てください。)



◆ 甲塚古墳(私有地)



◆ 狐塚古墳(私有地)



◆ 圓山古墳(宮内庁)



◆ 入道塚古墳(宮内庁)



◆ 嵯峨七ツ塚古墳2・3号墳(私有地)



◆ 朝原山古墳7号墳(私有地)



◆ 稲荷古墳(富岡稲荷)



◆ 移築広沢古墳2号墳(堀川高校グラウンド)



◆ 広沢古墳3号墳(広沢公園)



◆ 山越古墳13・14・15号墳(平安郷内)



◆ 印空寺古墳(印空寺境内)



◆ 移築御堂ヶ池1号墳(借戸山)市登録史跡



◆ 双ヶ岡古墳1号墳(一ノ丘)



◆ 双ヶ岡群集墳7号墳(三ノ丘鼓部)

法金剛院

待賢門院(藤原璋子)は、平安時代の右大臣・清原夏野の山荘跡につくられた天安寺を、1130年に法金剛院として再興しました。極楽浄土をあらわす美しい浄土式庭園は、桜・花菖蒲や90種類以上の蓮の花があり「関西花の寺25」に選ばれています。境内の五位山と青女滝(せいじょのたき)は国特別名勝に指定されています。



庭園とその背後にある五位山



青女滝

千代の古道2



～文化財と遺跡を歩く～ 京都歴史散策マップ



発行 京都市・(財)京都市埋蔵文化財研究所

千代の古道2周辺の発掘調査

千代の古道は京より大覚寺(嵯峨院)周辺に通じる道です。平安時代前期の歌人在原行平(ありわらのゆきひら)(818年～893年)の嵯峨天皇を偲ぶ和歌に詠まれた「千代の古道」は、後世に歌枕として詠まれ、いくつかの古道が比定されています。その一つに現在の下立売通西端から嵯峨に延びる道(通称嵯峨街道)があります。道沿いには寺院跡や集落跡などの遺跡がみられます。千代の古道の東部、花園地区には平安京西北域に室町時代に建立された妙心寺の寺域が広がっています。史跡妙心寺境内ではこれまでに発掘調査や立会調査で、平安時代から江戸時代の遺構が多数発見されています。その南西には平安時代後期に平安京の西側に隣接して造営された法金剛院が寺域を縮小しながらも、今に法灯を伝え残っています。これまでの発掘調査で旧境内の様子が明らかになっています。千代の古道中央部、常盤・太秦地区では古墳時代から江戸時代の遺跡である常盤仲之町遺跡や飛鳥時代に建立された広隆寺旧境内があり、発掘調査が数多く行われています。また、常盤地区の北側には、平安時代から中世の集落跡である草木町遺跡があります。古道の西部、広沢池周辺には古墳が多数確認されています。発掘調査を行った古墳は僅かですが、これまでに音戸山古墳群や御堂ヶ池古墳群の調査が行われています。

①～③ 平安京右京北辺・一条四坊跡 史跡妙心寺境内

妙心寺境内は、平安京北西域の右京北辺・一条四坊に位置します。一条四坊には「花園離宮」と呼ばれた離宮や「池館」と称された源有仁(ありひと)の邸宅が営まれたとされています。妙心寺は、暦応年間(1338～42)花園上皇が花園離宮を禅寺としたことにはじまります。その後、応仁・文明の乱による兵火などで焼亡しましたが、皇室や有力大名らの信仰を集め、現在では臨濟宗妙心寺派大本山として広大な境内を占めるに至っています。調査は1979年から行われ、立会調査も含め7回実施しています。これまでの調査では平安時代から江戸時代の井戸跡、路面跡や溝跡などが見つかっています。とくに平安時代の土御門大路側溝や江戸時代の石組溝、石材と石が詰まった穴などが見つかっており、境内の変遷の一端が明らかになりました。

① 平安京右京北辺四坊六町跡



土御門大路北側溝跡

② 平安京右京北辺四坊六町跡



発掘調査の様子

③ 平安京右京一条四坊八町跡



発掘調査の様子



石で護岸された溝(江戸時代)



石材や石が詰まった穴(江戸時代)

⑨ 草木町遺跡

1990年に常盤草木町一帯の立会調査で平安時代前期の溝や土器を含む土層の広がりが発見され、集落跡とされました。2001年に常盤野小学校の体育館・プール新築工事に伴う発掘調査が行われ、鎌倉時代から室町時代の建物、柵列、溝などが見つかっており、集落の一面であることがわかりました。



溝跡や柵跡(鎌倉時代から室町時代)



建物跡(鎌倉時代から室町時代)

④ 法金剛院旧境内

大治五年(1130)に鳥羽天皇の中宮・待賢門院璋子(たいいけんもんいんたまこ)の発願により造営された法金剛院は、南北三町、東西二町の規模で北辺は近衛大路の延長、南辺は春日小路の延長、東辺は西京極大路に面していました。最初の調査は1968年の丸太町通の拡幅時に行われました。その後、1995・96年のJR山陰線の立体交差化に伴う発掘調査や花園駅前広場の整備に伴う発掘調査で、塔跡や東御門の地業跡や東御所建物に伴う廊下「中門廊」や中門、遣水の跡などが次々と確認され、法金剛院旧境内の様子が明らかになりました。



JR花園駅前広場で見つかった東御所の廊下「中門廊」や中門跡



JR山陰線の南側で発見された東御門とみられる門跡

⑩ 音戸山古墳群

鳴滝地区の音戸山から延びる丘陵の端部に、直径約10mの円墳14基と一辺9m～13mの方墳3基合わせて17基からなる古墳群です。1983年の宅地造成に伴い4基(1・3～5号)の古墳の発掘調査が実施され、埋葬施設はいずれも横穴式石室で、石室内から副葬品の土器類と家形石椀の破片も発見されました。



1号墳の横穴式石室

⑤～⑧ 常盤仲之町遺跡 広隆寺旧境内

常盤仲之町遺跡は1977年に、JR山陰線を挟んだ東映太秦映画村の北側で、建物新築工事に伴う発掘調査で見つかった古墳時代から中世の遺跡です。とくに飛鳥時代(7世紀前半)の竪穴住居跡が多数見つかっており集落跡の存在が明らかになりました。また、2006年から2008年にJR山陰線の高架工事に伴う発掘調査が行われ、弥生時代から飛鳥時代の竪穴住居跡をはじめ、平安時代の溝、鎌倉時代の池跡や室町時代の墓跡なども発見されました。南側には広隆寺が現存していますが、平安時代の文献によれば、広隆寺の寺域は今よりもはるかに广大で、常盤仲之町遺跡とも重複しています。広隆寺旧境内の調査では寺域の東側を限る築地の基底部や建物基礎などが発見されています。また、平安時代以降の遺構も多く見つかっています。2010年に東映太秦映画村前でを行った道路拡幅に伴う発掘調査で、平安時代中期から後期の建物跡や井戸、溝などが見つかっています。建物跡近くからは、地鎮を行ったとみられる完形の土器を埋めた穴や、経文が刻まれた瓦経の破片、小型の銅鏡も発見され注目されます。



1977年の調査風景 写真上に当時の山陰線線路が見える



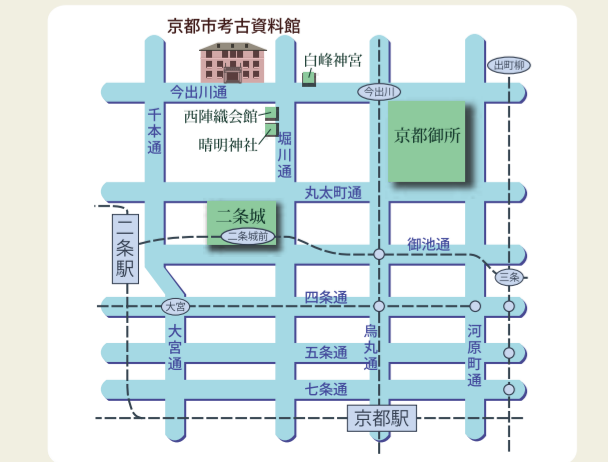
JR山陰線北側の発掘調査の様子



京都市考古資料館

大正3年に本野精吾の設計で建てられた旧西陣織物館を内部改修し、京都市内の発掘調査・研究の業績を発表・展示するため昭和54年11月に設立されました。特別展と常設展で構成され、約1000点の遺物が展示されています。遺物展示のほかにも、映像やパソコンで旧石器時代から近世にかけての京都の歴史を学ぶことができます。建物は、昭和59年に京都市有形文化財に登録されています。

〒602-8435
京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町 265-1
TEL. 075-432-3245 FAX. 075-431-3307
http://www.kyoto-arc.or.jp/museum/
入館無料・月曜休館(月曜が祝日の場合は翌日)
開館時間 9:00～17:00(入館は16:30まで)
JR京都駅より地下鉄烏丸線 今出川駅下車徒歩15分
市バス201・203・59系統 今出川大宮下車すぐ



鎌倉時代の池跡(景石と小石を敷いた洲浜)



JR山陰線南側での発掘調査の様子



古墳時代の竪穴住居跡



発掘調査の様子 右に東映太秦映画村の入口が見える



土器が埋納された穴(平安時代)



表裏に法華經の経文が刻まれていた瓦経



出土した海獣葡萄鏡(奈良時代から平安時代初頭)



資料提供: 財団法人京都市埋蔵文化財研究所